

「山梨県民俗芸能現況調査報告書～継承の危機にある民俗芸能～」概要

令和7年9月10日

山梨県文化財保護審議会 無形文化財及び民俗文化財部会

1. 調査の目的と背景

● 目的

県内各地に伝わる貴重な民俗芸能を保護しつつ、その価値を広く世に知らしめ、地域の活性化に活かしていくためには、それらの文化財が現在どのような状況にあるのかを正確に把握する必要がある。

そのため、県内各市町村の祭りや民俗芸能の実施状況を、担い手である各保存団体から直接情報収集し、祭りや芸能を維持・継承していく上での問題点と解決すべき課題、県・市町村等に対する要望などを網羅的に調査する。

● 背景

急速に進む少子・高齢化や地域の過疎化、それにとまなう民俗芸能の担い手不足・後継者不足など、民俗芸能をはじめとする無形民俗文化財の維持・継承にとって厳しい社会環境については、これまでも繰り返し指摘されてきた。

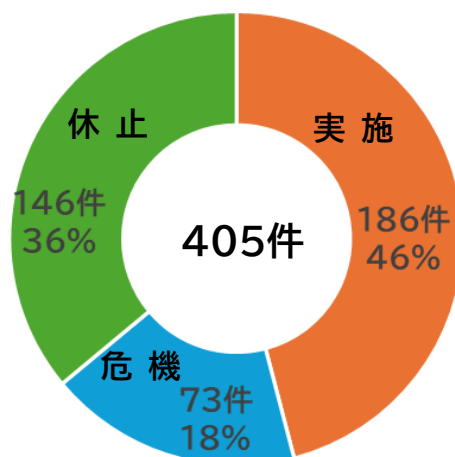
これに加えて近年の新型コロナウイルスの流行による祭礼行事の自粛によって、永年人々の手で護られてきた芸能や儀礼はその姿を大きく変えつつある。

2. 調査対象と調査の方法

- 調査対象 山梨県民俗芸能緊急調査(平成24年3月公表)で調査対象とした民俗芸能386件に新たに調査対象とした19件を加えた405件
※種別では獅子舞が最も多く全体の36%を占め、次いで神楽が24%となっており、この二つで全体の60%を占めている。
- 調査方法 市町村を通じて各保存団体代表者へ調査票を配布
- 調査時期 令和6年9月～12月

3. 県内の民俗芸能の現況

- 県内の民俗芸能 405 件のうち
186件(46%)を実施と整理。
219件(54%)を存続の危機
または既に休止の状態と整理。



4. 民俗芸能を継承する上での課題

- 担い手の不足
 - 高齢化による指導者、後継者の不足
 - 子どもの減少、民俗芸能に触れる機会の減少
- 囃子・踊り・舞の技の継承に関する問題
 - 指導者、裏方の減少
 - 譜面や映像としての保存
- 継承を阻む社会的要因
 - 財源不足による道具や建物等の維持困難
 - 資材調達の困難
 - 保存団体への負担集中
 - 生業の変化等に伴う練習時間減少
 - 発表の場の減少
- コロナ禍の影響
 - 祭りや行事の中止等に伴う芸能の小規模・簡略化
 - 技術継承の弱体化と練習方法の変更
 - 継承意欲の低下

5. 施策の提言

- 今回の調査によって、県内の民俗芸能をめぐる危機的状況がきわめて深刻なレベルにあることが改めて確認された。
- 各保存団体からも県・市町村に向けて民俗芸能を継承していけるように力を入れてほしいという要望が多数出されており、これらの声に早急に応える施策が求められている。
- 以上を踏まえ、以下6つの施策を提言する。
 - ① 担い手・後継者の確保に関する支援
 - ② 発表の場の創出と情報発信に関する支援
 - ③ 舞や囃子等の技能の継承に関する支援
 - ④ 記録作成への支援と音声映像記録の公開
 - ⑤ 用具類の更新等への資金面での支援
 - ⑥ 保存団体との連携、ネットワーク構築